現代青年におけるポジティブ信奉の功罪(2)

—他の指標との関連—

○小塩真司¹・中間玲子²

(¹ 中部大学人文学部・² 兵庫教育大学大学院学校教育研究科)

キーワード: ポジティブ信奉, 日常行動, 二分法思考,

Pitfalls of excessive positive thinking (2): Relations among the SEPT, dichotomous thinking, and self-development behaviors.

Atsushi OSHIO¹ and Reiko NAKAMA²

(¹ Chubu Univ., ² Hyogo University of Teacher Education)

Key words: Excessive positive thinking, daily behaviors, dichotomous thinking

目 的

前報に引き続き, 本研究ではポジティブな志向や感情を持つことを絶対的に善と考える“ポジティブ信奉 (excessive positive thinking)”の特徴を探ることを目的とする。

ここでは第 1 に, 日常生活において自己実現を志向する方向性をもつ行動をとりあげる。ポジティブ信奉をもつ個人が, 実際に日常生活で自分の目標に向けての行動や自己実現を志向する行動, 夢を叶えることを志向する行動などにより多く従事すると予想される。

また第 2 に, 二分法的思考に注目する。二分法的思考は, 物事を白と黒, 損と得, 敵と味方といった 2 つのカテゴリに分けて認識する傾向である。ポジティブ信奉は, ポジティブな効果をもつ思考や行動に接近し, ネガティブな効果をもつ思考や行動を忌避するという点で, 二分法的な思考に関わることが予想される。

方 法

調査対象者 調査には大学生 303 名 (男性 112 名, 女性 191 名, 平均年齢 19.86 歳) が参加した。

分析対象 本研究では, 質問紙の中で以下の部分に注目して分析を行った。(1) **ポジティブ信奉尺度** (SEPT; Scale of Excessive Positive Thinking): 前報で作成された尺度である。ここでは, 因子分析後の「PT (positive thinking) 選好」5 項目, 「PT 過信」5 項目, 「NT (Negative Thinking) 忌避」3 項目, 「NT 過信」3 項目の計 16 項目を使用した。(2) **日常における行動項目**: 日常生活の中で自己成長や自己実現, 夢の実現や充実した生活にかかわる行動の経験頻度を尋ねる 23 項目を用いた。(3) **二分法的思考尺度** (DTI; Dichotomous Thinking Inventory): 二分法的思考を測定するために, Oshio(2009)によって作成された尺度である。「二分法の選好」「二分法的信念」「損得思考」の各 5 項目, 計 15 項目。6 件法。

結果と考察

ポジティブ信奉尺度と日常における行動項目との関連を検討するために, Spearman の順位相関係数を算出した。23 の行動項目のうち, 11 の行動について有意な相関係数を得た

Table 1 ポジティブ信奉尺度と日常における行動項目との関連 (有意な相関がみられた項目, Spearman の順位相関係数)

	PT選好	PT過信	NT忌避	NT過信	M	SD	min	max
履修授業数	.24 **	.01	.03	.03	12.71	3.67	1	21
生き方を考える時間数	.22 **	.10	.08	.12	4.33	13.96	0	189
夢や目標をかなえるための本	.22 **	.15 *	.11	.09	1.31	2.71	0	20
所属クラブ・サークル数	.19 **	.06	-.01	-.05	0.75	0.70	0	3
自己啓発関連セミナー参加回数	.19 **	.15 *	.12	.10	1.05	7.10	0	100
スピリチュアルスポット訪問数	.19 **	.02	.05	.03	0.53	1.61	0	10
占い経験数	.18 *	.03	.16	.13	0.15	0.78	0	10
夢や目標のために使う金額	.18 *	.08	.06	-.04	4201.98	6699.42	0	30000
予習復習時間数	.18 *	.07	.10	.14 *	2.98	3.55	0	20
1 ヶ月の飲み会数	.17 *	.14	-.09	.06	1.64	3.10	0	30
1 年間の目標数	.14 *	.09	-.07	-.02	7.33	27.28	0	365

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

Table 2 ポジティブ信奉尺度と二分法的思考の関連

	PT選好	PT過信	NT忌避	NT過信	M	SD
DTI総得点	.08	.17 *	.08	.25 ***	3.47	0.70
二分法の選好	.10	.23 **	.05	.23 **	3.51	0.89
二分法的信念	-.01	.03	.07	.18 **	2.73	0.93
損得思考	.11	.13	.06	.18 **	4.18	0.86

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

(Table 1)。多くの有意な正の相関がみられたのは PT 選好下位尺度であり, 履修授業数の多さや生き方を考える時間数の多さ, 夢や目標を叶えるための本を読む冊数の多さ, クラブやサークルへの所属数の多さなどの行動頻度に関連していた。この下位尺度は, ポジティブな結果を生み出すため, 常にポジティブな思考や行動をとった方が良いとする信念を意味する。本研究の結果は, このような信念が実際に日常生活において, 自己実現志向的な行動頻度を増加させる傾向にあることを示していると言える。ただしこれらの行動の中には, 占いや金銭を必要とする行動など, 必ずしも肯定的な結果を生み出すわけではないものも含まれている。

ポジティブ信奉尺度と二分法的思考尺度との相関係数 (Pearson の積率相関係数) を Table 2 に示す。二分法的思考総得点は, PT 過信および NT 過信の両下位尺度と有意な正の相関を示した。PT 過信は DTI の下位尺度のうち, 二分法的な判断をすることが有効であるという信念を意味する「二分法の選好」が有意な正の相関を示し, NT 過信はいずれの下位尺度とも有意な正の相関を示した。これらの結果は, ポジティブな考え方へ接近し, ネガティブな考え方を避けることですべての物事が上手くいくという強い信念に, 二分法的思考がかかわっていることを示唆している。

その一方で, 二分法的思考は PT 選好や NT 忌避とは有意な関連を示さなかった。PT 選好や NT 忌避は, PT 過信および NT 過信よりも具体的な行動に近い領域を反映していると考えられる。したがって二分法的な思考は, 個別の具体的なポジティブさを求める行動というよりも, その背景にあるメタ的な信念に関連しているのではないかと考えられる。

本研究の結果は, ポジティブ信奉尺度の一定の妥当性を示すものであるとも言える。今後は多くの変数との関連を検討し, さらに妥当性を検討するとともに, 過度なポジティブ志向をもつことのメリットとデメリットを明確化していく必要があるだろう。